

お わ り に

新型コロナウイルスも感染者が減少し、一時期、収束の兆しが見えたかに思いましたが、新たな感染力の強いオミクロン株の広がり、未だに以前の学校生活とはほど遠い状況が続いております。福井県独自の「感染拡大警報」が発令されてからは、本校の特徴である全校一体型教科センター方式が本来の姿から遠ざかり、校内を3分割した学年別エリアでの活動となってしまいました。今まで日常的に行われていた学年を越えた交流活動が自粛となり、他学年との接触を防ぐため、登下校も時間差という状況が続いています。このような制約中でも、生徒たちは、「生徒が主役」「共に創る」を合い言葉に、ICTを活用した異学年交流など、様々な工夫を凝らし、学びを深めております。まさに、本校の研究主題にある「Agency」＝「自ら考え、主体的に責任を持って行動する資質・能力」が育まれているものと考えます。

本年度は、年度はじめに、『「共に」創る授業を目指して』『授業』『家庭学習』『評価』の一貫性について、各教科が育成を目指す資質・能力を整理し、生徒が参加して研究会を行いました。そして、思考力・判断力・表現力をつけるための授業構想をまとめたプロジェクトシートを作成し、授業実践を行ってきました。実践の振り返りとして、生徒が考えを深めるために、生徒が主役となる授業づくりについて、生徒が参加しての研究会を行い、福井大学連合教職大学院の先生方も交えて議論を重ねてきました。このような活動を通して、年度末の生徒の授業評価では、『授業がよくわかる 90 %』『授業に主体的に取り組む 91 %』と昨年を上回る結果が得られました。

また、総合的な学習の時間や特別活動、道徳を繋げた生徒主体の探究的なプロジェクト学習のカリキュラムを実施し、1年間を大きく3つに分けたシーズンプロジェクトに取り組んでいます。年度はじめ、各学年で考えたプロジェクトの内容をACS（AGO Community Session）において異学年グループで話し合い、各学年のプロジェクトの内容を共有するとともに、意見交換を行いました。ACSでの話し合いをもとに各学年でプロジェクトを練り上げ、シーズンプロジェクトを進めていきました。各プロジェクトのまとめとして、My Learningを位置づけ、異学年グループで発表し合うことで、各自が身に付けた学びを振り返り、学びを自覚し、学びを深め、次への活動へと繋げています。本年度はプロジェクト学習のまとめとして、「福井市安居中学校プロジェクト学習の概要」を作成し、校区内全家庭に配付する予定です。

平成24年、安居小中学校から分離独立した安居中学校は、本年度で10年という節目が終わり、来年度は、11年目という新たな1歩を踏み出そうとしています。コロナ禍においても安居中の生徒は、困難にうち勝つため、みんなで考え、みんなで協力して行動し、よりよいものを作り上げていく大きな力がついていると信じております。さらなる前進を期待しております。最後になりましたが、これまで本校の研究に多大なる御指導、御協力をいただきました福井大学連合教職大学院の先生方、福井市教育委員会、県内各小中学校関係各位の皆様方には深く感謝いたしますとともに、今後ますますの御指導、御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

令和4年3月

教頭 柴田 俊之